

広報ただみ診療所

朝日診療所の面会に関するお願い

朝日診療所看護師長

馬場 トシ子



まだまだ暑い日が続いておりますが、今年も残暑が厳しくなる予想ですので、体調管理には充分注意してください。

9月には国民の祝日の一つである「敬老の日」が第3月曜日にあります。「多年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝う」ことを趣旨として制定されています。日頃はなかなか思いを伝えることが出来ないものですが、感謝の気持ちを伝える良い機会かもしれません。

診療所に入院している患者さんと接していると、「母ちゃんどこさ行った？姿が見えないが、こわぐなあってねえーか？」「こめら寒くねえーように布団かけたか？」などという言葉が良く聞かれます。記憶障害や理解力・判断力の低下があったとしても、家族に対する思いやりの心は続いているのだとつくづく感じます。また、表情の変化が乏しい患者さんでも、ご家族と面会して笑みを浮かべる光景を目の当たりにすると、ご家族と過ごす時間が特別なものであると感じられます。

診療所の面会についてですが、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行したことを受け、面会ルールを見直しました。ただ、診療所には免疫力や体力の低下した高齢の患者さんが入院しているだけに、感染すると重症化する危険性があります。

また、医療従事者に感染者が出ると、たちまち人手不足となります。このような理由により、コロナ前のように全面解除には至っておりません。入院手続きの際に、面会ルールについて説明がありますので、ご確認ください。職員も今まで通り、体調管理や感染対策に努めております。制限があり不安や不便に感じることもあるかもしれませんが、感染リスクを抑えるためにも、面会ルールに従って面会をお願いいたします。ご理解とご協力のほどよろしくをお願いいたします。

最後になりますが、診療所では看護師が不足しております。現在、ギリギリの人数で看護業務を行っておりますが、1人でも欠けてしまうとさらに深刻な状況に陥ってしまいます。診療所で働ける方を募集しておりますので、お知り合いの方がおられましたら、是非お声がけをお願いいたします。

地域おこし協力隊として Vol.105

只見町教育振興協力隊 原永 円香



勤務地であるただみ・モノとくらしのミュージアムは、昨年の7月22日に開館しました。開館から1年があっという間に経ち、8月12日には入館者5000人を突破しました。5000人目の入館者には記念品を贈呈するなど、ささやかなセレモニーを行なうことができました。この夏は、近所の子もたちが勉強をする場所を求めて来館してくれることもありました。土日に開いている公共施設がない地域ならではの感覚を感じています。展示会の見学だけでなく、気軽に遊びに来てもらえるような施設になっていったら良いと感じた出来事でした。

現在、第2回企画展として「生誕百年 皆川雅舟展 只見が生んだ渾朴の書人」を開催しています。仕切りのない広い展示ホールが、屏風をはじめとする書作品で埋められています。昨年度開催した2つの展示会は、どちらも民具をテーマとしたものでした。自由に展示台を動かすことの出来るホールは、テーマに合わせて配置を変えることが可能です。もし両方見に来てくださった方がいるようでしたら、その雰囲気の違いに驚かれたのではないのでしょうか。町内にある気軽に来ることのできる博物館の一つとして、只見町に関するさまざまなテーマの展示会を実施していきたいと思っております。

町民の皆さんは、博物館や美術館へどのくらいの頻度で行かれるでしょうか。博物館めぐりが趣味の私は、平均すると週に3～5個くらいの展示会を見に行っています。只見町は、博物館や記念館が5つもある町です。規模の大きな施設は遠いものの、地域に根ざした施設で楽しむことのできる地域だと感じています。奥会津地域で同時開催される連携展も今年で2回目を迎えています。ただみ・モノとくらしのミュージアムも含め、町内、町外の施設に、1度だけでなく何度も足を運んでもらえると嬉しく思います。